

## 「5 月度研修会/先端研」報告

修習技術者支援実行委員会  
委員：奥田 榮司  
技術士(経営工学、総合技術監理)

### 1. 研修会概要

日時 平成 24 年 5 月 12 日 (土)  
13:00～20:00  
主催 公益社団法人日本技術士会  
修習技術者支援実行委員会  
会場 日本技術士会荻手第二ビル 5 階

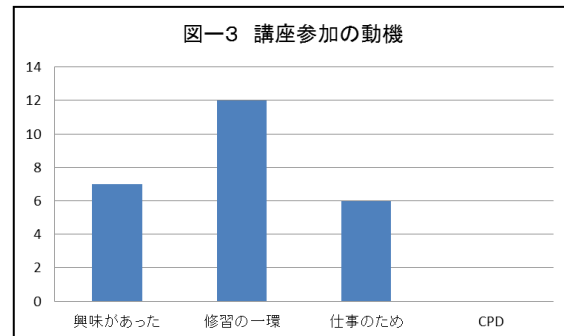
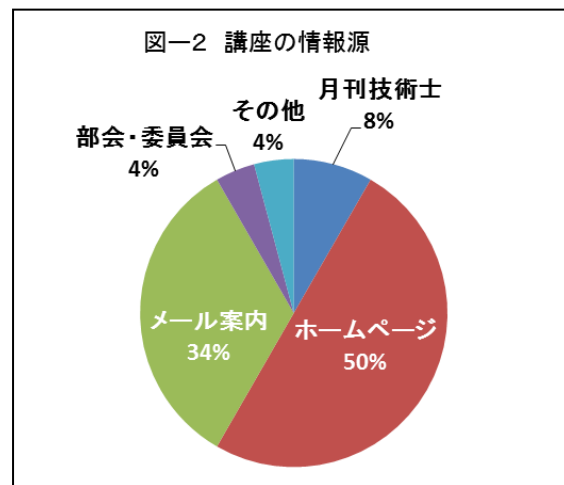
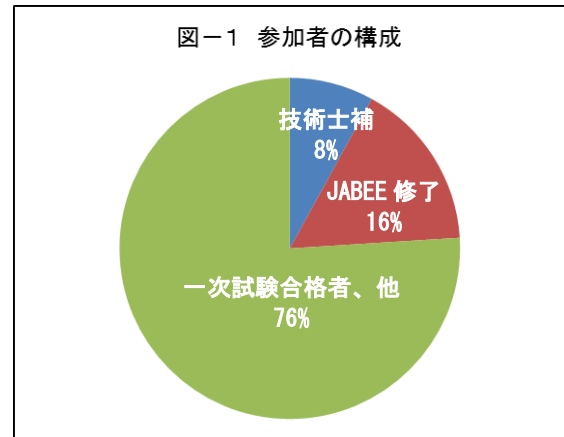
### 2. 研修会の内容

I. 研修会	
司会	奥田 榮司
開会挨拶 修習委 委員長	13:00～13:05 榊 勲
講演「技術士になるための問題 発見・解決」 修習委 顧問 技術士 (情報工学、総合技術監 理)	13:05～14:00 奥田孝之氏
【休憩】	14:00～14:10
実習「ケーススタディ」 総評：修習委 顧問 解説：修習委 顧問	14:10～16:30 小林 進氏 奥田孝之氏
【休憩】	16:30～16:40
II. 先端複合技術研究発表会	
司会	高橋 裕二
①大規模 IP カメラシステムで のストリームデータ管理	石附尚志氏
②“読み手指向”文字認識シ ステムの開発	松下朋永氏
【休憩】	18:00～18:15
III. 情報交流会	
司会	高橋 裕二

### 3. 研修会の参加者

研修会の参加者は募集 30 名に対し、申込者 31 名、当日出席者 25 名であった。実施時期が連休直後だったせいか、直前の申し込みが多かった。参加者の構成は図-1 に見る通りである。なお、今回は研修の内容を考えて技術士の参加は遠慮いただいた。

参加者が講座開催を知った方法と講座参加の動機をそれぞれ図-2、図-3 に示す。



### 4. 研修会状況について

今月の研修会課題は「業務遂行能力」で、①コミュニケーション能力、②企画・設計能力、③問題発見・解決能力がその基本である。これらは相互に関連して効力を発揮するものだが、今回は③に注目、座学と実習を組合せて、①②も並行で学習することとした。

取上げた題材は、技術士になって取り組むことが多い、目的やニーズは分かるが、その本質が分かりにくいという問題である。

時間的に窮屈な面もあったが、参加者には概ね好評だったようだ。



写真 1: 研修会の状況

#### ◆ 講演について

奥田（孝）氏から技術士になって遭遇する問題について、その特徴や解決のための考え方、手順を講義いただいた。

多くの問題解決技法も紹介され、状況に合わせ、それぞれの特長を生かしてその場に相応しい手法を使い分けることが必要であることが説明された。



写真 2: 奥田（孝）氏の講演

#### ◆ 体験実習について

実際に問題発見・解決を体験するため、身近な題材を課題としてケーススタディを行った。よく利用され、実務にも活用しやすい手法、ブレインストーミングで問題分析、KJ法でそれを整理したあとブレインライティングで解決策を見出した。

時間的制約の中で、皆、懸命に回答をまとめ、結果を発表、質疑応答も行った。そのあと、今回の課題に対して修習委顧問小林氏の総評、同奥田（孝）氏の解説をお聞

きして終了した。

このような体験は初めての人もいて、経験者がリードしている場面もあり、相互学習にもなったと考えられる。



写真 3: 実習におけるグループ作業の状況

#### 5. 先端複合技術研究発表会

修習技術者 2 名からの発表があった。いずれもよく練られた良い発表であり、発表後の質疑応答も活発で、今後の他の場面でのプレゼンテーションに対する自信をつけていただけたと思われる。

① 石附尚志氏: 大規模 IP カメラシステムでのストリームデータ管理

繁華街の防犯用 IP カメラシステムを安定に運用するため、ランニングコストを抑えながら、迅速に障害復旧する方法の提案とそのシステムを構築したことが報告された。

② 松下朋永氏: “読み手指向” 文字認識システムの開発

従来の“書き手指向”に対し、“読み手指向”という新しい視点に立った文字認識システムについて報告された。

人間感覚の特徴をよく生かした認識法により、予期しない読み違いや無理な認識などの解消が図られている。

#### 6. 情報交流会

研修会終了後、主催者、参加者がお互いに労をねぎらい合うとともに、情報交流を行った。

初参加者からは自己紹介と今後の決意表明、先輩からは激励があり、有意義な時間となった。特に参加者は、築かれた人間関係を今後役に立てていただきたい。

以上